

< 様式 6 >

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：豚の改良増殖

小課題名：やまなしの新系統豚の開発

細目課題名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	発育及び肉質に優れた系統豚が作出され系統認定も受けており、達成度は高い。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	三元交雑の雄系への利用が期待できる。また合成豚系統は国内でも2例目で、他機関には類似の豚がないことからブランド力強化にも貢献できる可能性があり、普及への期待大。
3 研究の発展性	4 / 5	新系統豚の開発ということでは研究は完了しているが、育種価選抜やドリップロスを指標とした肉質評価などの新たに取り組んだ技術は今後の研究への活用が期待できる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	県内の養豚農家の経営安定をめざし、ブランド力強化をはかるために雄系に着目した課題で、妥当であると評価。
総合評価	5 / 5	課題選定から研究の内容、成果とも評価できる。合成豚という新たな育種に取り組んだ成果で、他機関には類似系統豚がないこともあり、今後広く普及することを期待する。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

系統豚「フジザクラDB」を広く普及し、県産銘柄豚肉の差別化とブランド力の向上につなげる。国内2例目となる合成系統豚造成で得られたデータは広く情報提供し、今後の研究への活用を図る。

< 様式 6 >

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：豚の改良増殖

小課題名：系統豚「フジザクラ」の組合せ検定

細目課題名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	三元交雑によるフジザクラポークの生産のための適切な組合せ情報を提供しており、達成度は高い。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	本研究成果は、フジザクラポーク生産に利用されて県内養豚農家の経営に役立っており、有用性は高い。
3 研究の発展性	4 / 5	本研究成果が示す通り、三元交雑による肉豚生産のためには組合せ検定が必須である。今後の山梨ブランド豚の開発・普及の際にも、組合せ検定のプログラムが組込まれると期待される。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	三元交雑によるフジザクラポークの開発、普及のためには、組合せ検定は必須であり妥当である。
総合評価	5 / 5	三元交雑によるフジザクラポークの開発、普及に大いに貢献しており、特に成果の有用性は高いと評価。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今後、新系統豚による山梨ブランド豚肉を開発・普及するため、継続して組合せ検定を実施していく。

< 様式 6 >

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：豚の改良増殖

小課題名：系統豚「フジザクラ」の維持と増殖

細目課題名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	20年という長期にわたる系統の維持の中で、最近でこそ繁殖性への影響が見られてきたが、近交係数の上昇の抑制と遺伝的能力の維持という当初目的を達成している。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	山梨ブランドのフジザクラポーク生産の基礎系統として、県内養豚農家で利用され養豚経営を支えている。
3 研究の発展性	4 / 5	本研究によって得られた経験や情報は、新たな系統豚の維持増殖の際に大変有用であり、活用が期待できる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	三元交雑によるフジザクラポークの開発、普及のためには、基礎系統の維持増殖は必須であり妥当である。
総合評価	5 / 5	本課題の実施により、20年の長期にわたり、フジザクラポークの基礎系統として、県内養豚農家で利用され養豚経営を支えていることから、達成度、有用性が高いと評価。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

本研究により得られた経験や情報を、新たに開発した「フジザクラ DB」の維持増殖において活用し、近交係数の上昇の抑制と遺伝的能力の維持に努めます。